

**世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書 (2024 年度採択案件)**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	未来のコミュニティリーダー育成を目指したグアテマラ現地学習塾定着プロジェクト
(2) 実施団体名	NPO 法人幸縁
(3) 実施期間	2024 年 11 月 1 日～2025 年 10 月 31 日
(4) 実施国	グアテマラ共和国
(5) 活動地域	ソロラ県サンティアゴ・アティトラン市
(6) 活動概要	
<p>①活動の背景：</p> <p>活動地であるグアテマラ共和国ソロラ県サンティアゴ・アティトラン市の公立小学校では、教員の学力不足やストライキによる授業日数削減により、子ども達が全ての学習単元を終えることなく小学校を卒業することは日常である。また、グアテマラ公立小学校の6年時児童在籍率は46.7%（2018年国勢調査より）と義務教育であるにも関わらず対象児童の半数を切っており、教育に対する一般的な意識は決して高くない。このような教育環境下では、基礎学力の定着および自身で考える力を養うことは難しく、現地コミュニティ全体の生活向上や社会的自立に向けて自ら課題解決に取り組み貢献する人材が育ち難い。それゆえに、海外からの支援プロジェクトに常時頼る社会構造から脱却できずにいる。そこで、「将来、現地コミュニティのリーダーに成り得る人材の育成」を教育目的とし、①読み書き計算の基礎学力を高め、初等教育内容を補強する場②情操教育や市民教育を通して、知見を広げ思考力や主体性を養う場、とする活動地初の学習塾を2023年夏に立ち上げた。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>本事業は上記の経緯をもって立ち上げた現地学習塾をグアテマラ現地で根付かせていくことを主目的とし、学習塾の需要の間口を広げることを目標に以下の事業計画をたてた。</p> <p>①本学習塾の肝である日本式教育（反復練習を重視した学力平均を高める教育や学級活動・清掃などの特別活動等）の理解共有を深めるため、学習塾現地スタッフ（+現地小学校教員有志）と日本の教育関係者や教育学部生との接点を設ける</p> <p>②指導内容をブラッシュアップして塾生の満足度をより高め、村内の伝聞による入塾者増員を促進</p> <p>③指導法の共有等を通じて現地学校教員との関係強化を目指す</p>	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容*

○活動期間を通じた継続的な運営：2024年10月7日～12月12日、2025年2月3日～4月11日、4月28日～7月4日、7月21日～9月26日の4ブロック（10週間/ブロック）で塾を開講した。現在5ブロック目（10月13日～）を開講中。2024年は4～6年生を対象に週2日の午前・午後2時間ずつ開講、2025年は3～6年生を対象に週4日の午後2時間開講した。

○現地スタッフと日本教育関係者との交流：2024年秋に現地スタッフの一人が来日した際、陰山メソッドのスキルタイム※実践校（2校）の実地見学、陰山英男先生ご本人と面会、愛知県内公立中学校の授業見学をした。また国内教育者のご厚意により陰山メソッドの講習を10週にわたって現地スタッフ全員がオンライン受講したり（陰山先生ご本人も特別講師として一日参加）、国内教育学部生（2校）とのオンライン交流を通じて両国の教育事情について情報交換を行ったり、現地スタッフ間の日本式教育への理解を深め共有することに努めた。

○指導内容のブラッシュアップ：上記の交流を通じた理解共有をベースにして、陰山メソッドのスキルタイムをグアテマラに輸入すべく、現地スタッフとともにスペイン語の音読教材、書き取り教材作成に特に尽力した。作成した教材は2025年から使用開始した。

○日本式教育に関心がある現地私立校スタッフに本塾の指導法を共有：活動期間中、法人代表がJICA中部を訪問した際のご縁で日本式教育に関心がある現地私立学校（グアテマラ財閥企業が有する幼小中高一貫校）のスタッフと繋がることができ、その後互いの学校の実地見学を二度行い日本式教育にまつわる教授法を共有した。先方は本学習塾で取り組むスキルタイムに大きな関心を寄せて下さり、先方の学校の授業内で、共有した教材を用いてスキルタイムをトライアルで導入してみるとのこと。

※陰山メソッドのスキルタイムとは、音読・計算・書き取り練習を5分ずつ連続して行う学習力向上トレーニングを指し、継続的な反復練習を徹底することで脳の前頭前野を活性化させて集中力・思考力・自制心・社交性などの非認知能力を高める。副次的な効果として語彙力・計算力・記憶力向上効果もある。

(2) 実施成果：

○今期活動中に指導した内容は、スキルタイム・算数・読書と作文・英語・音楽・図画工作・市民教育（道徳公民）・特別活動（清掃と日直）の8分野。スキルタイム（読み書き計算の反復練習法）は現地の子どもに合わせたスペイン語教材を現地スタッフとともに作成し（詳細は後述）、2025年から本格的に導入した。音楽クラスと図画工作クラスは2025年から専門講師に指導をお願いしている。また市民教育クラスでは村内の起業家さんを招いて特別講義をしていただいたり、日本の奨学金で留学している同郷の方のお話をオンラインで聞いたり、職場体験とインタビューを実施したり、ゴミ拾い等の社会活動を行ったりした。

○2024年12月～2025年4月、法人代表が現地に渡航し、12月のブロック終了後から約2か月かけて陰山メソッドのスキルタイムをベースにしたスペイン語の読み書き計算反復練習教材を作成した。音読練習については、現地の国定教科書から中高学年のレベルに合わせた文章を選出し音読用教材を作

成するところから始めた（音読指導が一般的ではないため、現地には音読教材が存在しない）。文章の選出には、語感が良いもの、一文が長めのもの、美しい文章が多い古典を取り入れることを意識した。また音読の際には腹式呼吸、口を大きく動かす、母音をはっきり発することを意識させる指導を心がけた。計算練習については、まず計算を採用し、合格タイムを設定してタイム到達を目指す（反復する）ことで各演算の定着を図り、100 ます計算の前段階として 10 ます計算を取り入れて計算へのハードルを下げ、四則演算の中で一番難易度が高い除算については、余り無し→余り有りへと段階を踏み、まず計算方式（わる数が 10 問ずつ固定）→完全ランダムへとステップアップするといったスキームを取り入れた。書き取り練習については、スペイン語は漢字の常用漢字（教育漢字）や英語のサイトワードに相当するものがないので、現地小学校の教科書頻出単語や日常生活で使う必須単語を名詞・動詞・修飾語のカテゴリ別に選出した。またスペイン語は漢字とは違って文字の読み仮名が存在しないため、単語の聞き取りと書き取りをセットにしたやり方を考案した。こうして作成した教材は 2025 年 2 月のブロックから使用し始め、ブロック毎に事前テストと事後テストを実施した。

○上記の事前テスト・事後テストの結果を基に 2～9 月の 3 ブロック全てに参加した者のスキルタイム学習成果を別紙グラフにまとめる。特に計算力の向上は目覚ましく、5, 6 年生上位層のタイムは日本の同世代と比較しても遜色ない。3, 4 年生もスキルタイム練習を始めて半年過ぎたあたりから全体的なタイム短縮が結果として表れ始めた。語彙力については、ブロックの初回と最終では 100 問新出単語の平均正答率が 1.1～1.3 倍に上がってるものの、10 週間で 100 単語定着までには至らなかった。

○2024 年 10～12 月は 25 人の 4～6 年生（6 年生は 12 月で卒業）、2025 年 2～4 月は 12 人の 5, 6 年生と 17 人の 3, 4 年生、2025 年 5～7 月は 14 人の 5, 6 年生と 16 人の 3, 4 年生、2025 年 7～9 月は 13 人の 5, 6 年生と 17 人の 3, 4 年生とともに活動した。2025 年 10 月現在は今年度最後のブロックが進行中で、13 人の 5, 6 年生と 13 人の 3, 4 年生、7 人の 1, 2 年生、8 人の現地スタッフとともに活動している。

（3）得られた教訓など：

○2025 年度から 3～6 年生の 4 学年を受け入れているが、5, 6 年生は年間通してメンバーが固定（増員することはあれども退塾者は基本いない）であるのに対し、3, 4 年生はブロック毎に一定数が入れ替わる印象（1 ブロックお休みして次ブロックに復帰するケースもある）。現地では馴染みのない日本式教育に則った指導内容や学力向上が結果として表れるには地道で継続的な努力を要することが中学年の子供には少しハードなのかもしれない？計算や作文の難易度を下げるだけの対応ではなく、中学年用のカリキュラムそのものを一度見直すことも検討。

○スキルタイムを継続することで計算力の向上は明確に表れているが、対して新出単語の記憶と定着効果についてはいまひとつ？書き取り練習のメソッドロジー、選出単語の難易度や 10 週間で覚える単語数の見直し、読書・作文指導の向上出しも併せて行いたい。

○読み書き計算の反復練習はスキルタイムとしてパッケージで実施することが大切だと考えている。よって書き取りの学習効果が明確化し、トータルパッケージで学習効果が見られた後に現地公教育へのアプローチを本格的に開始したい。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

○塾の運営は今後も継続的な活動を予定。法人代表の生活拠点をグアテマラに移行中で、活動の大半は現地にて行っていく。

○現時点での今後の方向性案は3つ。どの方向性で進めていくかは現地の状況による。

- 1：午前は中高生や成人対象の語学教室（英語・日本語）、午後は小学生対象の学習塾と、受益層を拡大してアカデミア 100 を生涯学習の場とする
- 2：グアテマラ小学生に向けたスキルタイム指導法を学習塾内で確立し、スキルタイムを公教育の場で指導の一環として取り入れてもらうよう教育機関へ働きかけて連携を強化していく
- 3：小学生の学習時間を2時間/日→6時間/日へと拡大し、学習塾→学校への機能拡張を目指す

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

○2年前に4年生であったある男子児童は、当初、たし算の「+1」や「+2」といった基礎的な問題においてもつまづきが見られた。しかし、2年間継続して通い続けた結果、現在では百ます計算のたし算100問を2分以内で解き終えるほどの計算力を身につけるまでに成長した。このような著しい変化はスタッフ一同にとって大きな驚きであり、同時に「入塾時にどれほど学力が低くとも、必ず伸びる」という信念がスタッフの間に確立された点も、非常に価値のある成果である。

○7月に開催した当団体の3周年記念オンラインイベントにおいては、日本人参加者とともにオンライン百ます計算を実施した。参加者には、学力が低いと言われるグアテマラにおいて、塾に通う子どもたちがどれほど基礎計算力を高めてきたかを実際に確認してもらう

(2) 活動の写真



スキルタイム5分間音読の様子。音読は前頭前野活性化の要



スキルタイム5分間計算の様子。一貫校のスタッフが見学中



音楽クラスの様子。日本から寄付されたピアノを使用



図画工作クラスの様子。日本から寄付された折紙を用いた作品



読書タイム。本屋や図書館が身近にないので貴重な時間



市民教育クラス。この日は村内の起業家さんの話を聞く

（3）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

○子ども達の成長がさまざまな形で表れている。学習成果としては計算力の向上が特に目覚ましく、それ以外にも指示の理解度、授業の集中度、機敏な行動、ルールを守るなど学習態度全般の改善が通塾期間が長い子どもほど顕著に表れている。今後現地公教育へのアプローチや日本との交流を視野に入れていく際、現地塾生のパフォーマンス力は弊団体の要になるので、現地の子ども達に良い効果が出ていることは団体にとっても大変嬉しいことである。

○学習塾の継続運営は現地スタッフの尽力無くして成り立たない。彼女たちへの給与を JICA 基金で1年間賄えたのは大変有難かった。おかげで継続した塾運営ができ、本活動の認知が国内・現地ともにさらに高まり（JICA の開発協力実践賞を授与できたことも大きかった）、今後の学習塾運営の大きな支えとなる弊団体マンスリーサポーターも増員することができた。総合して今後の持続的な活動へと繋がる一年となった。